

ロック・マルク・クリスチャン・カボレ・ブルキナファソ大統領の
11月18日から22日までの日本国公式訪問に際しての
日本国とブルキナファソとの間の共同声明

ロック・マルク・クリスチャン・カボレ・ブルキナファソ大統領は、2018年11月18日から22日まで、安倍晋三日本国総理大臣の招待により、日本国を公式訪問した。この訪問は、ブルキナファソの国家元首による初の二国間の公式訪日である。この機会に、両首脳は、首脳会談を行い、日本国とブルキナファソとの間の友好協力関係の強化及び国際的な課題について有意義な意見交換を行った。

1. 安倍総理大臣は、カボレ大統領及び大統領に随行している代表団の訪日を温かく歓迎した。両首脳は、この機会に、両国の友好協力関係が新たな段階に入ることを確認した。
2. 両首脳は、自由、民主主義、法の支配及びグッド・ガバナンスの尊重といった普遍的価値に基づく両国間の友好協力関係の着実な進展を歓迎した。両首脳は、二国間及び国際場裡における協力を一層強化することに対するコミットメントを再確認した。
3. カボレ大統領は、開かれた、包摂的で透明性のあるパートナーシップの枠組みであるアフリカ開発会議（T I C A D）プロセスを通じた、アフリカの開発における日本の多大な貢献のための取り組みを称賛した。両首脳は、T I C A Dのコミットメントの効果的な実施の重要性を強調し、T I C A D 7の成功に向けて協力していくとの決意を再確認した。カボレ大統領は、安倍総理大臣に対し、2019年8月に横浜で開催されるT I C A D 7に参加することを伝えた。これに対して、安倍総理大臣は、1993年のT I C A Dの創設以来、あらゆるT I C A D首脳会合へのブルキナファソの大きな貢献と有意な参画を称賛した。

I. 二国間関係の新たな段階

開発協力

4. 両首脳は、開放性、透明性、経済性及び財政健全性といった国際スタンダードに則った形で、質の高いインフラ整備を促進することの重要性を強調した。カボレ大統領は、2016年から2020年までの国家経済社会開発計画（P N D E S）を着実に実施するとの決意を再確認し、カボレ大統領は、P N D E Sの発展に向けた日本政府の協力を要請した。ま

た、同大統領は、ブルキナファソの安定と開発を阻害するテロと戦うため、日本に継続支援を求めた。安倍総理は、カボレ大統領に対し、同国の経済成長を後押しするため、質の高いインフラの整備、人材育成、教育の向上、農業の発展並びに食料、保健、水へのアクセス、環境及び治安を始めとする人間の安全保障分野における開発のための日本の支援の継続を表明した。両首脳は、2007年から二国間の意見交換の枠組が存在していることを歓迎した。両首脳は、二国間協力を活性化するため、第5回日・ブルキナファソ政策協議のできる限り早期の開催にかかる期待を表明した。

5. 両首脳は、人間の安全保障に関し、水及び衛生サービスへのアクセス向上並びに感染症、自然災害及び気候変動対策の重要性を強調した。また、カボレ大統領は、安倍総理大臣に対し、サヘル地域の記録的な大雨や干ばつを受け、ブルキナファソにおける食料安全保障を確保するための5億円規模の日本の食糧援助に関する交換公文の署名に謝意を示した。
6. 両首脳は、雇用を生み出し、収入を増加させるためブルキナファソの勤勉で豊富な労働力を活用しつつ、国造り及び経済社会開発を進める上で基礎となる、教育及び職業訓練の役割を再確認した。カボレ大統領は、日本の支援による、ブルキナファソにおける「第一次及び第二次中学校校舎建設計画」並びに「カヤ初等教員養成校建設計画」の実施の進展について満足の意を表明した。両首脳は、ブルキナファソの15名の若手の産業人材の能力強化を実現したABEイニシアティブの成果を歓迎した。
7. 両首脳は、日本人専門家の派遣及び能力強化のためのブルキナファソからの新たな研修生の受入れを通じた、技術協力の必要性を再確認した。この点に関し、両首脳は、技術協力の枠組みにおける専門家の派遣及び研修生の受入れの手続を円滑化する日・ブルキナファソ技術協力協定の署名を歓迎した。
8. 両首脳は、治安と開発が密接に関連することを強調した。カボレ大統領は、ブルキナファソ及びサヘル地域におけるテロ及び暴力的過激主義との戦いに対する日本からの支援及び協力に謝意を表明し、テロとの戦いの枠組で日本との協力を継続することへの希望を表明した。安倍総理大臣は、ブルキナファソを対象とするテロ攻撃に憤りを表明し、ブルキナファソ国民に対する同情と心からの哀悼の意を表明した。安倍総理大臣

は、ブルキナファソ国民に寄り添い、テロ及び暴力的過激主義との戦いにコミットすることを改めて表明し、地域のイニシアティブの証左であるG5サヘル合同部隊の設立を積極的に称賛し評価した。カボレ大統領は、ブルキナファソ政府への治安機材の供与を通じた、治安状況改善のための日本の支援に満足の意を表明した。

9. 両首脳は、ブルキナファソの社会及び経済発展を後押しするため、同国において活躍する青年海外協力隊の活動を積極的に評価した。
10. 両首脳は、内陸国であるブルキナファソにおいて質の高いインフラを整備することは、ブルキナファソの経済発展及び周辺地域の経済統合にとって重要であるとの認識の下、西アフリカ「成長の環」広域開発戦略的マスタープランに基づき実施される「ワガドゥグ南東部タンソバ・バイパス道路改善計画」及び「グンゲンーファダングルマ間道路整備計画」の進捗状況について満足の意を表明した。
11. 両首脳は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）達成に向けた国際的な取組に積極的に貢献するため、保健分野での両国の協力を一層強化することで一致した。カボレ大統領は、優先分野である保健分野での日本のブルキナファソに対する支援について、改めて謝意を表明した。

経済・投資・貿易

12. 両首脳は、外務省、経済産業省、日本貿易振興機構（JETRO）及び在日本国ブルキナファソ大使館の共催で行われた日ブルキナファソ・ビジネスフォーラムに満足の意を表明し、両国間の貿易及び投資を促進するための取組を強化するとの決意を確認した。両首脳は、ブルキナファソのGDPの35%を占め、また、ゴマ及び綿花等の国際的な競争力の高い産品を生産する農業を始めとする多くの分野で、ブルキナファソにおいて将来的により多くの日本企業が活動することに期待を示した。カボレ大統領は、日本企業のブルキナファソへの投資を促進するため、インフラの整備、法制度整備を始めとする、投資に有利な環境を創出するとの意図を表明した。この流れの中で、カボレ大統領は、相互の投資の促進及び保護に関する協定案の重要性を想起した。またカボレ大統領は日本政府に対し、最初の日ブルキナファソ・ビジネスフォーラムの成功に謝意を表明した。

II. 国際場裡での協力

法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序

13. 両首脳は、海洋法に関する国際連合条約（UNCLOS）に反映されたものを含む普遍的に認められた国際法の諸原則に従った、法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序を維持することに対するコミットメントを改めて表明した。両首脳は、航行及び上空飛行の自由、阻害されない通商、係争のある地形の非軍事化、自制並びに国際法の尊重に基づく、外交的及び法的プロセスの完全な尊重を通じた紛争の平和的解決の重要性を強調した。両首脳は、東シナ海及び南シナ海に広がる状況について深刻な懸念を再確認した。両首脳は、この地域における現状を変更し、緊張を高め得るあらゆる一方的な行動に強い反対を表明した。

14. 両首脳は、ブルキナファソのような内陸国にとって死活的な問題である、ギニア湾海域における最近の海賊・強盗事案の増加に対し懸念を表明した。海賊、違法漁業及びその他の違法な活動への対応を含め、海上安全分野の協力を推進することの重要性を再確認した。カボレ大統領は、ギニア湾諸国の海賊対策の枠組への支援を目的とした国際海事機関（IMO）の基金のトップドナーである日本に感謝の意を示した。

積極的平和主義

15. 両首脳は、国際法の遵守は世界の平和及び安定を維持するための礎であることを強調した。安倍総理は、カボレ大統領に対し、世界の平和、安定及び繁栄のための日本の貢献を強化することを目指す、日本の国際協調主義に基づく「積極的平和主義」について説明した。カボレ大統領は、日本の安全保障政策の意義及び取組を賞賛した。

北朝鮮情勢

16. 両首脳は、関連する国連安保理決議に従い、北朝鮮による全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ不可逆的な廃棄という国際社会の目標を達成するためのコミットメントを再確認した。両首脳は、北朝鮮に対して、前述の目標に向かって具体的な措置を講じることを求めた。両首脳は、米国の外交的取組への支持を表明するとともに、関連する安保理決議を完全に履行するとのコミットメントを再確認した。両首脳は、日本人の拉致問題を即時に解決することの重要性を強調した。

国連における協力

17. 両首脳は、国連安保理をより正統性があり、実効的で、代表性が高い組織とし、国連の信頼性をよりいっそう強化するため、常任及び非常任理事国数の双方の拡大を含む国連安保理改革を進める必要性があることに一致した。両首脳は、テキスト・ベース交渉の早期開始のための政府間交渉を進める必要性を強調するとともに、改革の早期実現に向け、関係するグループ間での対話を継続する重要性を確認した。この観点から、安倍総理大臣は、アフリカ共通ポジションが交渉文書に適切に反映されることへの支持を表明した。両首脳は、日本とアフリカ諸国が対話を継続することの重要性を再確認した。安倍総理大臣はまた、改革された安保理における日本の常任理事国入りへのブルキナファソの支持に深い謝意を表明した。

持続可能な開発

18. 両首脳は、国連の持続可能な開発のための2030アジェンダ及びアフリカ連合アジェンダ2063に従って、地球規模課題に対処するための協力を国際的に強化する必要性を再認識した。日本政府は、ブルキナファソ国民が期限内にこれらの目標を達成するために行う取組を支援することをコミットした。

核軍縮・不拡散

19. 両首脳は、核軍縮・不拡散の国際的な礎としての核兵器の不拡散に関する条約（NPT）の重要性を繰り返し述べた。両首脳は、この観点から、2020年のNPT運用検討会議において意義ある成果を達成するため、核兵器国と非核兵器国との間の緊密な協力の必要性を確認した。両首脳は、また、包括的核実験禁止条約の早期の発効の促進のため協力する意思を再確認した。更に、両首脳は、核兵器用核分裂性物質生産禁止条約の交渉の早期開始並びに不拡散及び軍縮に係る他の問題の解決に向け一致して協力する意図を表明した。

気候変動を含む地球規模課題

20. 両首脳は、気候変動を始めとする地球規模の課題に取り組むことの必要性を再確認し、パリ協定の実施指針に係る交渉を妥結させ、同実施指針を国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）において採択するために協力することに対し、確固たるコミットメントを表明した。

2025年国際博覧会

21. 両首脳は、多数国間の枠組で日本とブルキナファソが維持している協力関係を歓迎した。両首脳は、種々の国際的な場において、協力関係を強化するため一層努力するとの共通のコミットメントを再確認した。この観点から、カボレ大統領は、安倍総理大臣に対し、今月23日にパリで行われる2025年国際博覧会開催地選挙において大阪を支持することを決定したと伝えた。これに対し、安倍総理は、ブルキナファソの支持に心からの謝意を表明した。

22. 最後に、カボレ大統領は、安倍総理大臣、日本国政府及び日本国民に対し、公式訪問における大統領及び一行に対する温かい接遇について心からの謝意を表明した。カボレ大統領は、安倍総理に対し、今後外交ルートにより調整される日程でのブルキナファソ公式訪問に招待した。

2018年11月19日、東京